

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20221001	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	海氷生産量のグローバルマッピングとモニタリング構築	研究代表者 (所属・職)	大島 慶一郎（北海道大学・低温科学研究所・教授）

【平成23年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>当初の目標に向かって研究は着実に進展し、海氷生産量を見積もるアルゴリズムの開発、それを基にしたグローバルマッピング、沿岸ポリニアでの長期係留観測、未知の南極低層水生成域と北上経路の発見、オホーツク海での海氷生産量の減少に伴う中層循環の弱化的指摘など、順調に優れた成果を挙げている。また、海氷生産量・海氷域熱塩フラックスのデータベースの作成・公開を行うとともに、研究成果の積極的な公表・普及にも努めており、高く評価できる。今後、研究代表者のリーダーシップの下にさらに研究を推進することにより、当初の目標が達成されると期待できる。</p>	

【平成25年度 検証結果】

検証結果	<p>研究進捗評価結果とくらべ十分進展した研究成果であった。本研究は、これまで困難であった海氷生成量の現場観測を南極海等で行い、これを衛星データから海氷生産量を見積もるアルゴリズムの検証データとすることで、高精度の海氷生産量のグローバルマッピングを行いさらにこれをデータベース化して公表した。また、沿岸ポリニアでの高精度の海氷厚データと周辺海洋データとの同時取得によるポリニアでの効率的な海氷生産の機構解明、未知の南極深層水形成海域の発見、南極氷河と海氷生産とのリンケージ、オホーツク海での海氷生産量の変動と中層循環への影響など、当初予定された以上のインパクトのある研究成果を上げたことは高く評価できる。</p>
A+	